

2019年9月20日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2019年9月）

I. 概況

神奈川県は、海外経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに拡大している。

輸出は弱い動きとなっている。設備投資は増加している。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善するも、緩やかに持ち直している。住宅投資は持ち直している。公共投資は高い水準で推移している。こうした中、生産は弱めの動きとなっている。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出：弱い動きとなっている。

- 化粧品や電池等は増加しているものの、中国を含むアジア向け自動車・同部品や半導体等製造装置、米国向け自動車・同部品や金属加工機械、豪州向け建設・鉱山用機械等が減少していることから、弱い動きとなっている。

(2) 生産： 弱めの動きとなっている。

- ・ 素材関連は、生産設備の補修等の影響が一部にみられるものの、石油製品や鉄鋼が高水準の操業を続けているほか、化粧品や自動車向け製品等が増加していることから、持ち直している。
- ・ 輸送機械は、トラック・同部品が国内向けを中心に増加しているものの、乗用車・同部品が国内向けのほか、中国・北米向けなどで減少していることから、弱めの動きとなっている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、中国・北米向けの新規受注の減少が続いているものの、金属加工機械や半導体等製造装置を中心に高めの水準で推移している。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器や電子部品・デバイス等が減少しているものの、自動車向け製品等が増加していることから、下げ止まっている。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 19/6月短観における19年度の設備投資は、前年度から持ち越した投資案件のほか、成長分野における競争力強化に向けた投資、人手不足に対応した無人化・省人化投資、老朽化設備の更新投資等を中心に、2年連続で前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用・所得環境も着実に改善している。

- ・ 19/7月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から幾分低下したものの、引き続き高い水準となっており、労働需給は引き締まった状態が続いている。こうしたもとで、常用雇用者数と名目賃金は増加基調にあり、雇用者所得は着実に改善している。

(5) 個人消費： 緩やかに持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、高額品（時計、ブランド品等）などの一部で消費税率引き上げ前の需要増もみられているものの、主力の衣料品が減少しているため、弱い動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、惣菜商品が堅調に推移しているものの、家計の節約志向等の影響から、弱めの動きとなっている。
- ・ 家電販売額は、携帯電話が伸び悩んでいるものの、白物家電やテレビ、パソコンなどが買替需要に加え、消費税率引き上げ前の需要増もあって、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、主力車種のモデルチェンジや新型車投入効果などから、持ち直している。

《参考》

- ・ 県内の宿泊施設の客室稼働率は、インバウンド観光を含めて、横浜市内のホテルを中心に高い水準で推移している。県内の観光施設の利用者数は、天候不順などの影響がみられるものの、総じて堅調な入り込みとなっている。

(6) 住宅投資： 持ち直している。

- ・ 19/7月の新設住宅着工戸数は、貸家が減少したものの、分譲マンション、持家、分譲戸建てが増加したことから、全体では6か月連続で前年を上回った。

(7) 公共投資： 高い水準で推移している。

- ・ 19/8月の公共工事請負額は、都道府県や独立行政法人、地方公社などが減少したことから、全体では前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けも不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：6月+1.4%→7月+1.0%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：6月1.108%→7月1.106%）。

(2) 預金：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：6月+1.8%→7月+1.9%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。